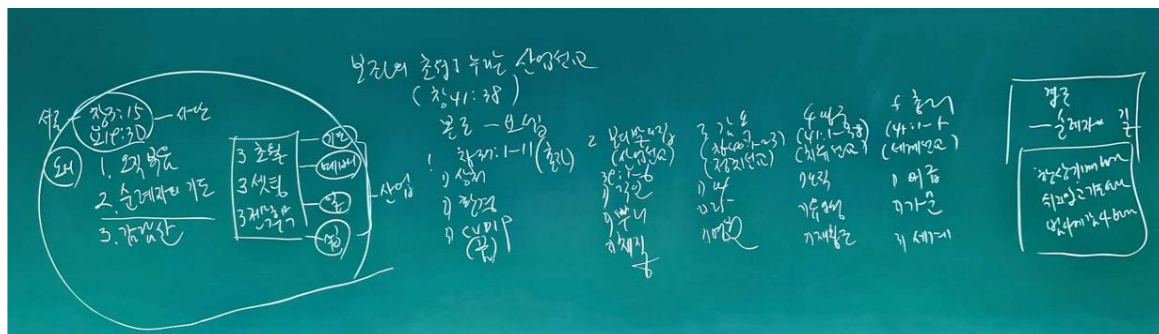
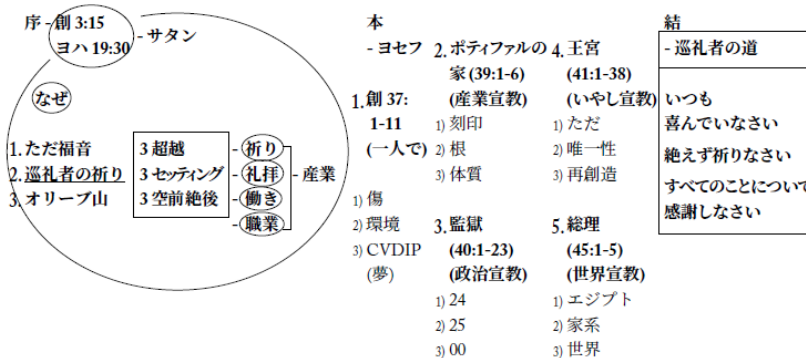




21.9.18 産業宣教

御座の超越を味わう産業宣教 創 41:38



創世記 41:38

そこでパロは家臣たちに言った。「神の霊の宿っているこのような人を、ほかに見つけることができようか。」

要約

仕事、葛藤、試みには水準がある。教会は 3 団体より 1 世紀遅れている水準だ。戦う時間、葛藤する時間もない。神様の前で悩んでメッセージを聞かなければならない。ヨセフは、御座の超越を味わう産業宣教であった。その話を未信者の王が見て言ったのだ。

□序論_創 3:15 女の子孫が蛇の頭を踏み砕くことは権威を打ちこわしたこと

働きが終わったのではない。サタンは死なない。それゆえ「権威を打ちこわした」ということは、恐ろしい言葉だ。それゆえ、イエスの御名で祈るのだ。私たちに「神の子どもとなる権威を与えた」と言われたのだ。イエス様もはじめに語られたとき「悪霊を追い出す権威も持たせるため」

ヨハネ 19:30 イエス様がみな成し遂げたとされた。「何もしなくてもよい」ではない。「キリストの中にはすべての知恵と知識の宝が隠されている」それを見つけないといけない。

創 3:15、ヨハ 19:30 も知らずに、何の権威を打ちこわしたのか、サタンが何かも知らない。

1. なぜ聖書は福音を語るのではなく、ただ福音を語っているのか。

2. なぜ教会史では 3 団体を超える巡礼者の祈りが出たのだろうか。

巡礼者は 24 を祈りながら、幸せと感謝と神様の力を見つけたのだ。

3. なぜイエス様がオリーブ山で、また、ただの集中を語られたのか。これをみなさんが見つけ出さなければならない。そうでなければ

3 超越-私の考えと自分自身には限界がある。私の考えでは 3 超越を見ることはできない。
3 セッティング-神のかたち、神様の霊、たましいこれを生かそうということだ。それゆえ「ただ」ということだ。
3 空前絶後が入っている。

祈り-巡礼者の祈りは「24」一つであった。「ただキリスト、ただ主の聖霊が私に(使 1:8)」

その苦しみの中で苦しみを感じられない神様の臨在を経験したのだ。砂漠の道を通り過ぎるのに、疲れないで行ったのだ。この人が福音を伝えた。来年の主題は「第 1, 2, 3 RUTC 答えの現場 24」だ。大きい主題が「巡礼者」だ。

実際に礼拝をよく分かっていない。道を通り過ぎるのも礼拝、苦しみに会う瞬間も、答えを受ける瞬間も礼拝
この中で働きが出てこなければならない。それが祈りで礼拝だ(ロマ 12:1)。
ここで私たちの学業や職業も作らなければならないが、これも祈りで、礼拝だ。
ここでみなさんの産業が自然に出てきて、これで宣教するというのが産業宣教だ。

□本論_この話が合うのか合わないのかヨセフを見よう。

1. 創 37:1-11 家で一人ですでに祈りと礼拝を味わっていた。

- 1) 傷になる状況
- 2) 良くない環境
- 3) ここで CVDIP 出てきた(夢)

一人でできるのが祈りで、礼拝だ。その人々が礼拝堂に来たというのは、すばらしい導きを受けたのだ。

2. ポティファルの家ですでに産業宣教という祈りと礼拝を味わった(創 39:1-6)

△神様といつもともにいる巡礼者の祈りの中にいることが確認できたのだ。

- 1) 刻印
- 2) 根
- 3) 体質

3. 監獄で政治宣教が起こった(創 40:1-23)

- 1) 24
- 2) 25
- 3) 永遠という祝福を味わった。

4. 王宮では最も確実ないやし宣教が出てきた(創 41:1-38)

- 1) ただ
- 2) 唯一性
- 3) 再創造

ヨセフのゆえにみな生かされるようになった。

5. 総理になって世界宣教することになった(創 45:1-5)

家でも(本論 1)総理になっても(本論 5)、祈りと礼拝を味わうことは全く同じだった。

本当に「24 幸せ」、「24 力」、「24 いやし」を見つけ出さなければならない。それが礼拝で、祈りだ。

- 1) エジプト
- 2) 家系
- 3) 世界を生かした。

□結論_巡礼者の道を行くのだ(ピリ 3:12)

いつも喜んでいなさい。
絶えず祈りなさい。
すべてのことについて感謝しなさい。

△これがパウロの巡礼者の祈り

3 超越、3 セッティング、3 空前絶後を完全に味わうことができる祈り

私はいつも喜び中にいる。

私はいつも祈りの中にいる。

私はいつも感謝の中にいる。

△みなさんが通う教会は祝福の現場だ。まちがっている人は、長所をもって神様のみこころに合うようにして、短所をいやしていくのだ。(序論に話したことを)本当にしてみなさい。

<全文書き起こし文翻訳>

私たちが、時々仕事をするのですが、水準というものがあります。みなさんが教会で葛藤、試み、それも水準があります。それゆえ今、3 団体より 1 世紀遅れている水準なので、参考にしなければなりません。

そのように戦う時間もなくて、葛藤する時間ありません。今年が、ほとんどみな過ぎたので、今年・来年には少しメッセージを、みなさんが悩みながら聞かなければなりません。悩みながら聞くということは、世的な悩みをするのではなく、本当に神様の前で悩んで聞くべきです。ひとまずヨセフは、簡単な話で、正確に御座の超越を味わう産業宣教でした。その話(御座の超越を味わう)を王が、未信者が見て言ったのです。驚くことです。

□序論_創 3:15、ヨハ 19:30

すると、みなさんがその、序論で考えなければならない部分です。

創 3:15

女の子孫が蛇の頭を踏み碎いたというのは、権威を打ちこわすのです。働きが終わったわけではありません。そして、働きが終わったと考える人が多いのです。サタンは死にません。ですから、「権威を打ちこわした」ということは、恐ろしいことです。それゆえ、イエスの御名によって祈るのです。

それゆえ「私たちに神の子どもとされる権威を与えた」と言われました。そうでしょう。そして、イエス様も初めて語られるとき「あなたがたとともにいるため、悪霊を追い出す権威を持たせるためであった」

ヨハネ 19:30

ヨハネ 19:30 に、イエス様が「完了した」と言われました。それは「何もしなくてもよい」そのことばではありません。それは大きい錯覚をしたのです。「キリストの中には、すべての知恵と知識の宝が隠されている」と言われました。それを見つけないければなりません。今年からみなさん、ちょっと本当に、度々、なんとなくするのではなく、悩みながら、少ししなければならぬということです。

なぜ？

1. ただ福音

なぜ？聖書は福音を語らず、聖書は福音を語っていません。「ただ福音」を語りました。そうでしょう。単なる福音、何かいいかげんに聞いて「信じれば救われる」このような形で話したのではないということです。そのことゆえに、イスラエルが7回、わざわいを受けたのではないのでしょうか。人々は必ず、なぜこのように、かなり大きな問題が起きてこそ、そのとき、しっかりしようとするのですが、あえてそのようにする必要はありません。人々が、ほとんどみなそうします。もう、みなさんはそうしてはいけません。特に、産業人は年をとって、教会に行けば重職者です。

2. 巡礼者の祈り

なぜ教会史には3団体を超える「巡礼者の祈り」が出てきたのでしょうか。この部分を知らなければなりません。「ああ..苦労が多い」ではありません。巡礼者は「24」を祈りながら、幸せと感謝と神様の力を見つけたのです。もうこの奥義をみなさんが分からなければ、年を取れば取るほど困ります。年を取れば突然、病気になります。大丈夫だったのに。そうでしょう。それは、弱くなっていて、ある日、生じるのです。

なぜ、ということ、聖書は「ただ福音」を話されたのでしょうか。他の宗教が多くありますが、一緒に手を握って信じようでなく「ただ福音」だけを話しました。そうです。その人々これ(創3:15、ヨハ19:30)も知らずに、「権威を打ちこわした」というけれど何の権威を打ちこわしたのかも知らずに、サタンが何かも知らないのです。終わったからサタンはいないと思います。これ(サタン)は、過越祭で完全に打ちこわしたのに、ついてきます。

3. オリーブ山

なぜイエス様がオリーブ山で、また、この「ただの集中」を言われたのでしょうか。これをみなさんが見つけ出さなければなりません。今、産業宣教、伝道学、核心、別々にしていますが、事実上、みな同じで重要なので。いま、産業宣教メッセージは産業宣教をする人だけが知るべきでしょうか。そうではありません。みな知らなければなりません。なぜ、そうしたと思いますか。イエス様の最後の約束は何でしたか。「天と地のいっさいの権威がわたしには与えられています」こう言われました。

3 超越

これを(序論1、2、3)をしなければ、3超越を味わうことはできません。

なぜ「私の考えを捨てなさい」と言うのかというと、私の考えには限界があるので、自分自身にも限界あります。それを(私の考え)をもって、これを(3超越)を見ることができない、その話です。確かに聖書にはこの(3超越)の約束をしてくださいました。

3 セッティング

そして、みなさんご存じのように、私たちの中にとっても大きなものが入っています。神のかたち、神様の霊、私たちのたましい。ものすごいのです。これをもう生かそうということです。それで「ただ」ということは「違うことは必要ない、価値がない、してはならない」このような水準の低い話ではありません。

それで、私は他の団体で、ちょっと、こういう話をすれば申し訳ないのですが、他の団体で、宗教で霊性訓練するのを見ながら、私は笑いました。「あれが何か、霊性なのか……」あまりに知らないから。これ(序論)が分からなければ霊性にならないのです。すれば損です、損。

3 空前絶後

3空前絶後が入っているでしょう。それゆえ、よく聞かなければなりません。どうか、ちょっと私たちの産業人は、年を召した方たちです。

祈り

祈りを正しく知らなければできません。すると初代教会や、Remnant7人、巡礼者の祈りは何だったのでしょうか。

「24」一つでした。そうでしょう。「ただキリストです。ただ主の聖霊が私に」それでした。イエス様も教えられたとき、祈りの課題をいくつか教えたのではありません。「ただ聖霊があなたがたの上に臨めば」この祈りを知らないのです。この祈り(序論)を知らないから、祈りがとても難しくなります。

実際の答えはあるかもしれませんが、これ(3 超越、3 セッティング、3 空前絶後)はありません。そうです、やっとうご飯を食べて答えを受けて、少しだけお金がちょっとできて、そうするうちにまた、何もなくて。このような水準です。未信者があざ笑うことです。かえってサタンの力を握ってこっちに入る人々が未信者です。これが 3 団体です。そうでしょう。この人は、完全に自分も滅びて、他の人も滅びる道に入ったのですが、それしか行くところがないでしょう。教会が説明を正確にしないから。

今、私たちがするそれは祈りではありません。夜中、悩んだところで、それが何の祈りでしょうか。この巡礼者の本を読むように三冊紹介しましたが、読んでみてください。この人たちは、その苦しみの中で、苦しみを感じられない神様の臨在を感じて行ったのですか。砂漠の道を通り過ぎるのですが、馬車に乗って行く人も疲れるのですが、疲れないうで行く人たちは。止められない人々です。この人が福音を伝えたのです。

それゆえ、来年に「現場の答え 24」大きい主題が「巡礼者」です。歴史を確かに調べる必要あって、聖書をちょっと詳しく見る必要があります。

礼拝

なので、実際に礼拝をよく知らないということです。「礼拝堂に集まって、行った」これが礼拝でしょうか。ちがいます。この人は、祈りと同じように、道を歩むことも礼拝です。苦しみに会う瞬間も礼拝です。そうでしょう。私が答えを受ける瞬間も礼拝です。

ダビデがゴリヤテに勝ってきたから女たちが「サウルは千を打ち、ダビデは万を打った。」こう言いました。私はその聖書箇所、明日 1 部の礼拝説教が何か分かりますか。誤った礼拝と正しい礼拝。それがそこで正しい言葉ですか。それが正しい言葉だと見ている時は、申し訳ないのですが、祈りを知らず、礼拝が分からないということです。それゆえ、そのことば(「サウルは千を打ち、ダビデは万を打った。')が出てきたのです。私たちは現場で何かことがあるかどうかは関係なく、「礼拝堂に行ってひざまずいて座っていれば礼拝だ」それだけを考えるでしょう。それも礼拝であるのは間違いありません。しかし、はたしてそうでしょうか。はたして、世界を動かすこの祝福(序論)は、そのようなことでしょうか。

働き

また、私たちはどんなことも、この中(祈り、礼拝)から、働きが出てこなければなりません。祈りも知らず、礼拝も知らず、主の働きが何かを知らなければ、働きのことで争って試みにあって。主の働きを知っているのではありません。そうでしょう。それが祈りで礼拝です。ですから、パウロは結論を出してローマ 12 章に「私たちのからだを生きた供え物としてささげなさい」そうでしょう。

職業

ここから、私たちの学業や職業も作らなければならないのですが、これも祈りで、礼拝です。

産業

それとともに、これをもってみなさんの産業に出てくるでしょう。自然に。これが産業です。これで宣教するのが産業宣教です。

興奮するのではなくて、騒ぐのではありません。私たちは、ちょっと、みなさんは考えを本当にしなければなりません。

□本論_ヨセフ

それで、この部分をヨセフという人をもって一度見てみましょう。この話が合うのか合わないのか。この話が合うのか合わないのかをヨセフを持って見てみようということです。

1. 創 37:1-11 (一人で)

ヨセフはすでに家で、この祈りと礼拝に成功していました。成功というよりは、家ですでに祈りと礼拝を味わっていました。

1) 傷

とても傷になる状況でしょう。お母さんが亡くなりました。

2) 環境

そこに環境が良くないでしょう。

3) CVDIP (夢)

ここでヨセフは CVDIP が出てきたのです。私たちは、よく夢!このように話します。

これが何かというと、すでに家で一人で味わっていたのです。一人でできるのが祈りで、礼拝です。この人が礼拝堂に来たということは、すばらしい導きを受けたということです。

2. ポティファルの家(産業宣教)

ポティファルの家で、すでに産業宣教という祈りと礼拝を味わっていました。ポティファルの家では、一人だというより、はじめから産業宣教を味わいました。そうでしょう。それが創世紀 39 章 1 節から 6 節です。よく知っていることです。しかし、みなさん本当の流れと内容は知らずにいるでしょう。

1) 刻印

2) 根

3) 体質

ここにヨセフは初めての始まりなのですが、あったすべての答えが事実、確認できたので、もう確認したのです。神様といつともともにいる巡礼者の祈りの中にいることが確認できました。

3. 監獄(創 40:1-23、政治宣教)

みなさんがご存じのように、これでまた、監獄に行ったのではないのでしょうか。ヨセフが監獄に行くときは、別の話です。事実上、多くの答えを味わっていたので。みなさんが知っているように、弁明しないで行きました。それが創世紀 40 章 1 節から 23 節でしょう。

ここは一人ではなくて、産業宣教程度ではなくて、ここでは完全に政治宣教が起こるのです。ここでより一層ヨセフが受けた答えがあります。「24、25、永遠」という祝福を味わうようになりました。覚えるべきです。

4. 王宮(創 41:1-38、いやし宣教)

いよいよ王宮に行きます。この王宮では、みなさんが知っているとおり、それこそ政治宣教も含まれるのですが、政治程度ではありません。最も確実ないやし宣教が出てきたのではないのでしょうか。ヨセフのゆえにみな生かされるようになりました。

1) ただ

2) 唯一性

3) 再創造

ここで味わうようになった答えはなんのでしょうか。ただ、唯一性、再創造です。このように味わうのです。

5. 総理(創 45:1-5、世界宣教)

いよいよ総理になりました。そうして、もう世界を治めるようになる、これが何でしょうか。世界宣教です。重要なことは、ヨセフがこのとき(本論 1)も、このとき(本論 5)も、全く同じだったという事実です。祈りを味わって礼拝を味わうのに、全く同じでした。みなさん、これをしっかりと握らなければなりません。

もう産業人のみなさんは重要です。ところで急務です。みなさんの立場が急です。年齢がちょっと急なのです。みなさん、本当にすべきです。本当に「24 幸せ」が何か見つけ出さなければなりません。それが祈りです。それが礼拝です。

「24 力」見つけ出さなければなりません。それが祈りで、それが礼拝です。「24 いやし」が出てこなければなりません。それが礼拝で、祈りです。

1) エジプト

なので、なんのでしょうか。この今、総理になったから、直ちにエジプトを生かしました。

2) 家系

家系を生かしました。

3) 世界

全世界が穀物を買にくるから、世界を生かすようになります。単純に「主を信じなさい」そのように言う必要もありません。生かしてしまうから。必ずこの祝福を味わわなければなりません。私は自慢はできません。私はこれを味わっていて、確信しています。神様の前で。

それで、高慢な話ではないでしょう。それでみなさん大変でしょう。当然、大変でしょう。すると、未来はさらに問題です。どの未来が合っていますか。これが(序論)が合っているのでしょうか。今、みなさんがしていることが合っているのでしょうか。答えは出ています。まず目の前のことだけ、度々こう言うのですが、未来はどうしますか。未来は防げません。

□結論_巡礼者の道

このように、もう結論が出てくるのですが、どのように出てくるのでしょうか。これを(巡礼者の道)私たちは行くのです。「みな得たのでもなくて、成し遂げたのでもなくて」パウロが言ったことばのように。

いつも喜んでいなさい

絶えず祈りなさい

すべてのことについて感謝しなさい

ここで言ったことはなんでしょう。どれくらい苦勞をたくさんしたでしょう。

「いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい」これです。「すべてのことについて感謝しなさい」これが(いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい、すべてのことについて感謝しなさい)単なる単語ではなく、実際にパウロにあったことです。さあ、言葉を変えます。これが(いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい、すべてのことについて感謝しなさい)パウロの、巡礼者の祈りです。これが三つ(3 超越、3 セッティング、3 空前絶後)を完全に味わうことができる祈りです。

「いつも悲しみなさい。絶えず悪口を言いなさい、すべてのことについて不平を言いなさい」それを何と言うでしょう。地獄だと言います。それが地獄です。ですから、信者が地獄の中に住んでいるのです。いつも悲しくて、いつも他の人の悪口を言って、いつも不平を言って。このようになるから、祝福をのろいにしてしまいます。

みなさんが通っている教会は祝福の現場です。そうでしょう。それを分からなければ、のろいの現場に中に入っています。本人が一人で。ある人は機会を危機にして、ある人は危機を機会にするではないでしょうか。

間違っている人をどうしますか。長所で短所を直すべきです。そうでしょう。多くの人々は短所を持って長所を表現しようとするのですが、一生直せません。長所を持って短所を直すのです。人は、よくできることがあって、できないことがあります。よくできることをもって、神様のみこころに合うようにして、短所をいやしていくのです。

「いつも喜んでいなさい」これは、普通の話ではありません。私たちのようにいるのではなく、パウロがここにいたということです。完全にパウロはこの道を行きながら言ったことです。このことばは、「私はいつも喜びの中にいます」ということです。それが祈りです。「私はいつも祈りの中にいます。私はいつも感謝の中にいます」監獄にいる時もこうです。(いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい、すべてのことについて感謝しなさい)何かひょっとして死がきた時もこうです(いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい、すべてのことについて感謝しなさい)ものすごいことでしょう。

産業人のみなさんが教会を生かして、次世代を生かすことが当然の祝福です。みなさんが教役者の家主になります。当然の祝福です。本当にしてみてください。祈ります。

祈り

すべての問題の解決者であるイエス・キリストの恵みと神様の大きな愛と聖霊の働きとが、この時代を生かすすべての産業人の上に今からとこしえまでいつもともにありますように。アーメン

直筆

